

感想述べ合い美術鑑賞

帯三条高 見方さまざま「対話型」体験

校長）で19、21日、美術品の「対話型鑑賞」と呼ばれるユニークな授業が行われ



美術作品をじっくりと鑑賞し、意見を述べ合う生徒

た。学校に運び込まれた絵画や書を前に、生徒たちが率直に意見を交わした。

3年生の自己表現の授業の一環で実施。とち芸術文化振興機構の松井由孝代表が絵画など25点を貸し出し、道立帯広美術館の職員がファシリテーターを務めた。

21日の授業では、生徒たちが3グループに分かれ、グループごとに絵画や書を鑑賞した。一つの作品を30秒間じっくり見た後、同美術館の耳塚里沙学芸員が「この絵の中では何が起っていますか」「時間は何時ごろだと思われますか」などと問い掛け、生徒が自由

に思いを述べた。

前衛書作品では「漢字に見える」「恐竜みたいな動物が動いて、竜巻を起こしているよう」「墨の部分が大陸で、地球にも見える」などさまざまな声が上がった。

授業の終わりに、耳塚学芸員は「いろんな見方があるのが美術の面白さ。いろんな人の見方を聞いてみると楽しいと思います」と呼び掛けた。東川茉央さん（17）は「初めて生で美術品を見た。みんなの意見が聞けて面白かった」と話していた。（澤村真理子）